

事例：No. 11

オールラウンダー生産システム

1. 林業事業体名 中勢森林組合

2. 林業事業体の概要

①年間素材生産量 13,714 m³ (うち 間伐材の占める割合 85%) (平成 24 年度実績)

②生産する主な樹種 スギ及びヒノキ (割合 6 : 4)

③素材生産に関わる作業員数 12 名 (1 班 4 名 × 3 班)

3. 取組の特長

- ・ 伐倒、集材、造材、運材、運搬、作業道開設の各作業工程を進捗バランスを考慮しながら搬出班が行なうことにより、隙間時間を埋め、作業の効率化と生産性の向上に努めている。
- ・ 間伐施業を主体とした団地化にも積極的に取り組み、安定的な事業量の確保に努めている。
- ・ 搬出された材は中間土場にて選別を行い、市売り並びに県内外の工場へ安定供給に努めている。

4. 具体的な内容

①施業方法：高密路網を利用した定性間伐

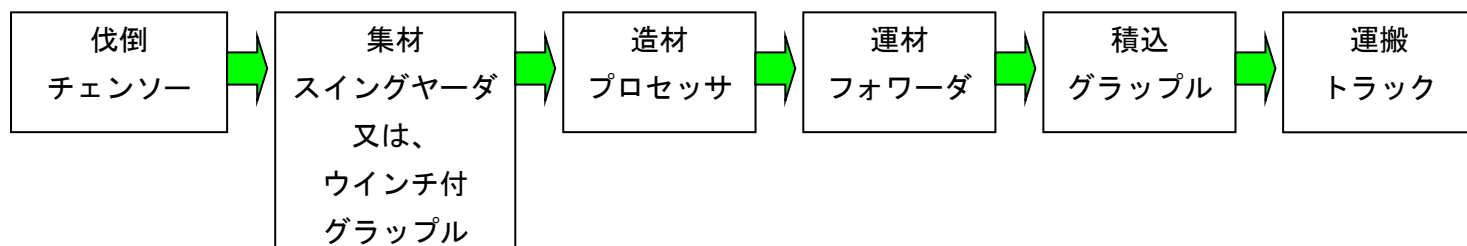
②使用機械：プロセッサ 1 台、スイングヤーダ又は、ウインチ付グラップル 1 台、フォワーダ 1 台、グラップル 1 台

③作業システム

1) 旧作業システム (3 人/セット)



2) 現行作業システム (4 人/セット)



特徴：旧作業システムでは、トラックによる運搬を外注業者に依頼していたが、すべてを搬出班が行なうことにより、隙間時間を埋め、効率的な作業を実施。

④森林作業道の作設方法

- ・ 崩土等が起こらないように、幅員、切土、盛土を抑えて開設し、雨水による洗掘を防止するため水切り等を行なっている。
- ・ 林内作業道密度は、150~200m/ha 幅員 3~3.5m

⑤労働生産性及び素材生産コスト

利用間伐	旧作業システム		新作業システム	
	労働生産性 (5 m ³ /人・日)	労働生産コスト (10,000 円/m ³)	労働生産性 (6.5 m ³ /人・日)	労働生産コスト (8,000 円/m ³)
	4~7 m ³ /人・日	9,000~12,000 円	5~8 m ³ /人・日	7,000~11,000 円

5. 今後の取組み

中勢森林組合では、森林経営計画による利用間伐を推進し、木材の安定供給体制づくりと森林所有者への利益還元を目指しており、そのため、機械化の推進による素材生産の効率化を行なっている。

今後は、架線系等新たな機械の導入による効率的な作業システム、安全で災害に強い森林作業道の開設により生産性の向上に努めるとともに、木材供給先のニーズに適した選別を行っていく。

また、プランナー、フォレストワーカー等人材育成に一層努めるとともに、国産材自給率 50%達成を目指し各種研修会にも積極的に参加するなど技術向上に努めていく。



プロセッサによる作材作業



フォワーダによる運材作業

【問い合わせ先】

所属：三重県津農林水産事務所
 役職・氏名：主査 鎌田 康宏
 連絡先：059-223-5091